

【施設状況】

グループ名称	篠ノ井こども広場(このゆびとまれ)									
指定管理者名	労働者協同組合 ワークスコープ・センター事業団						法人番号	3013305000743		
所管課	主	117000	保育・幼稚園課	副						
構成施設	1503	篠ノ井こども広場(このゆびとまれ)								
施設分類	06	保健福祉2型			施設利用者圏域	01	地域施設	利用制適用区分	01	代行制
施設概要	建物延べ床面積:552㎡ プレイルーム、飲食ルーム、おひるね室、授乳室、活動室、会議室 敷地面積:1129, 59㎡									
施設設置目的	乳幼児および幼児とその親の子育てに対する悩みや不安を解消し、もってそれらの者の福祉の増進に資するため、子育て支援の拠点施設として設置する。									
基本方針等	指定管理の創意工夫に基づいた管理運営により、質の高いサービスを利用者に提供するとともに、地域に根差した施設となることを目指す。									
主な実施事業	①子育て中の親と子どもの交流に関する事業 ②子育てに関する相談 ③子育てグループ等の育成 ④子育てに関する情報提供 ⑤あそびに関する指導助言 ⑥子育て情報誌の発行 ⑦子育て講座イベントの開催 ⑧利用者支援事業 ⑨その他子育て支援に関する こと									

【項目評価基準表】

評価	評価基準
5 (優れている)	・協定、事業計画に基づく管理運営や事業の実施が期待以上で、指定管理者のノウハウや努力等によるところが特に大きい
4 (良い)	・協定、事業計画に基づく管理運営や事業の実施が期待以上
3 (普通)	・協定、事業計画が予定どおり実施された
2 (劣る)	・協定、事業計画の一部が予定どおり実施されない ・管理運営の一部において、市の指導が必要
1 (悪い)	・協定、事業計画が全て実施されない ・管理運営の全てにおいて、市の指導が必要 ・市の指導を受けてもなお、全く改善が図られない

【評価項目】

1 指定管理者の健全性

指定管理者名	労働者協同組合 ワークスコープ・センター事業団				当該指定管理者の 指定回数	4 回
指定期間	令和5年4月1日	～	令和10年3月31日	5年	当該指定管理者の 管理運営開始日	平成22年4月1日
指定 管理 者の 健 全 性	施設の設置目的や市が示した基本方針、また、自ら提案した内容に沿った管理運営であったか。 また、団体の財務状況や組織体制は、管理運営実績のある他施設での管理運営状況も踏まえ、良好で、健全か。					評価
	特記事項 (問題等があった場合に、 その内容等を記入)	令和5年度の他現場での不適切報告を受け、他現場との相互監査や職員研修を引き続き行った。				3

2 施設の有効活用

No. 24

施設利用状況 (利用者数、件数、稼働率など)	利用区分等	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	対前年比	評価
	利用者	人	12,634	15,340	25,121	25,175	100%	4
	(内出張広場参加者)	人	380	300	280	299	107%	
	新規登録乳幼児数	人	408	956	1,131	882	78%	
	専門家相談件数	件	282	309	257	408	159%	
	子育てコンシェルジュ相談件数	件	1,342	1,307	1,170	1,109	95%	
	(特記事項) ・新規登録乳幼児数の低下は、令和6年の出生率が過去最低であったことが影響していると考えられる。 ・専門家相談件数が前年度に比べ増加している。歯科相談や栄養相談など、身近で専門家に相談できる利点が周知されてきていることや、ホームページやInstagram、有線放送による周知活動を行ったことから件数が増加したと考えられる。							
事業実施内容	区分	協定内容・指定管理者提案			追加事業、未実施事業及び未実施の理由			
	市指定事業	①子育て中の親と子どもの交流に関する事業 ②子育てに関する相談 ③子育てグループ等の育成 ④子育てに関する情報の提供 ⑤あそびに関する指導及び助言 ⑥子育て情報誌の発行 ⑦子育て講座、イベントの開催 ⑧利用者支援事業(子育てコンシェルジュ) ⑨その他子育て支援に関すること			・子育て中の保護者向けのワークショップ「なかみをふやそう！わたしのしつけぶくろ」の講座講師育成研修会 ・「寄り添い型支援」への理解を深めるための研修会 ・世界ダウン症の日にここフェスタへの参加 ・ライフプランニングセミナー			
	自主事業	<講座の開催> ・親子でリトミック ・ベビーイングリッシュ ・親子ヨガ <その他> ・育児用品、衣類リユースの常設 ・大型育児用品リユースイベント ・プランター菜園 ・フードパントリー、パンの配布						
サービス維持・向上の取組み (広報等)		・ホームページ、Instagramで情報発信 ・篠ノ井有線放送による地域への周知活動(月1回)						

3 利用者評価

区分		内容		評価
利用者要望把握	(1) 利用者要望把握方法	利用者アンケート		4
	(2) 調査、会議等の内容 ・利用者アンケート調査・・・令和6年11月5日～12月6日(1か月)回答者数159名 ・イベント終了後のアンケートおよび感想の聞き取り。「休日マタニティセミナー」「篠ノ井交流センター子育て広場」「育休パパの座談会」「転入者のおしゃべり会」等。 ・利用者の声BOXの設置(広場内に投書箱を設置)			
(3) 調査、会議等の結果 ・利用者アンケートは、意見要望を含め結果はフロア内に掲示するとともに、ホームページに期間限定で掲載した。 ・イベント終了後のアンケートは、次回開催への参考にする材料とした。 ・講座の感想については、報告と併せてフロア内に掲示をした。 ・利用者の声BOXについては、職員間での確認をすると共に返答を掲示した。				
利用者評価	(1) 良好とする評価 ＊こども広場利用者アンケート ・利用者満足度(満足90.6%) ・リフレッシュできた(68.6%)・子育て情報が増えた(44%)・子育て支援を実感できた(36.5%)・親の友人、知人が増えた(28.9%)・子育てが楽しくなった(27.7%)・子育てについて前向きになった(27.7%) 「スタッフが気軽に声をかけてくれる」「子どもも楽しめて母親自身もリフレッシュできる」「ふれあいタイムが楽しみ」「土日や夏休みも開放してくれているのがありがたい」「衛生的で安心して過ごせる」など			
	(2) 苦情・改善等の要望事項 ・利用者不満足度(1.3%) ・距離、アクセス(駐車場等)・スタッフの対応(話しかけにくい)・他の利用者(トラブル、グループの輪に入りにくい) ・内容(楽しめない、期待に反していた) 「建て替えのチャンスがあるならもっと遊ぶスペースを広くしてほしい」「スタッフはもっと子どもと接していただけるとありがたい」「おもちゃの種類が増えると良い」「おもちゃを定期的に変えたり増やしてほしい」			
	《対応措置》 ・スタッフ、おもちゃの対応については、職員間で確認し対応した。 ・建て替えの際の要望については担当課に返答をお願いし、原文のまま掲示する。 ・投書箱に投かんされた内容は、苦情要望、好意的な内容など6件。全職員把握済み。			

4 事業収支

No. 24

事業収支 (単位:円)	指定管理者収支(令和6年度)				市の収支				評価	
		年度計画額		収支実績額			令和6年度決算		令和5年度決算(前年度)	
		項目	金額	項目	金額		項目	金額	項目	金額
	収入	利用料金		利用料金		歳入	使用料		使用料	
		指定管理料	26,732,000	指定管理料	26,732,000		雑(納付金)		雑(納付金)	
		委託料	320,520	委託料	321,432		行政財産目的外使用料		行政財産目的外使用料	
		販売収入等		販売収入等			貸付料		貸付料	
		その他収入		その他収入	130,000		その他	10,759,000	その他	10,433,000
		自己資本金		自己資本金	970,878					
		計	27,052,520	計	28,154,310		計	10,759,000	計	10,433,000
支出	人件費	18,274,230	人件費	19,374,016	歳出	指定管理料	26,732,000	指定管理料	26,710,000	
	設備管理費	360,000	設備管理費	284,043		委託料		委託料		
	備品購入費	100,000	備品購入費	240,492		需用費		需用費		
	修繕費	150,000	修繕費	43,000		役務費		役務費		
	光熱水費	1,150,000	光熱水費	1,124,360		使用料・賃借料	57,024	使用料・賃借料	57,024	
	事業費	2,359,552	事業費	1,840,992		修繕費		修繕費	128,700	
	事務経費	40,000	事務経費	26,555		工事請負費	1,354,100	工事請負費	698,500	
	本社経費	3,341,500	本社経費	3,414,067		備品購入費		備品購入費		
	その他	1,796,351	その他	1,853,139		その他		その他		
		計	27,571,633	計		28,200,664		計	28,143,124	計
自主事業	収入	519,113	収入	129,100						
	支出		支出	82,746						
	自主事業損益	519,113	自主事業損益	46,354						
損益	0		0		差引	-17,384,124		-17,161,224		
人件費比率【人件費(賃金等)／令和6年度指定管理者事業支出】(支出に占める人件費の割合)									68.7%	
本社経費が、計画額と実績額で異なる理由				本社経費は按分している為変動しています。委託事業、実習受入れ、自主事業で収入が増加したので変わりました。						

5 管理運営全般 ※ すべて ☒ で、「3」。「4」「5」とする場合は、評価理由欄に理由を記載してください。

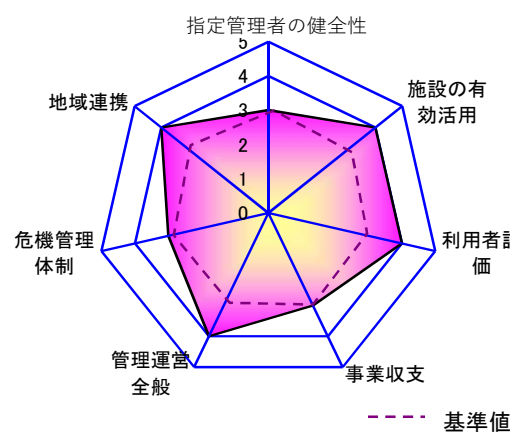
区分	確認内容	チェック欄	評価
職員配置	1 施設管理運営に必要な人員が、適正で有効に配置されているか	☒	4
	配置実績 (うち市内雇用職員数) 施設長1(1)館長1(1)子育て支援員6(子育てコンシェルジュを含む)(5)事務1(1)清掃2(2) 計11人		
	2 専門性を備えた職員、有資格者が必要に応じて配置されているか		
	3 労働関係法令を遵守し、職員の適正な労働条件を確保しているか		
	4 職員の資質・能力向上を図り、施設を適切に運営するための取組みや研修がなされたか		
平等利用	1 特定の団体や個人に偏らない、公平・公正な、透明性の高い運営がなされたか	☒	
	2 使用許可、減免等の事務手続きが適切に行われたか		
経理	1 施設の管理運営に係る収支の内容や、指定管理料、利用料金等の取扱いは適切に行われたか	☒	
	2 収支内容等を記載した帳簿を整備しているか		
施設・備品の維持管理	1 必要とされている保守、点検、清掃、保安、警備等、必要な維持管理業務が確実に実行されたか	☒	
	2 備品はⅠ種、Ⅱ種を明確にし、それぞれ台帳、目録等を整備の上、管理が適正に行われたか		
セルフモニタリング等	1 日常的、定期的に業務の点検、監視が行われたか	☒	
	2 事業計画・報告書、予算書・決算書や、施設の利用状況などの定期報告、点検・検査結果報告などが遅滞なく提出されたか		

危機管理体制	区分	確認内容	チェック欄	評価
	安全対策	1 危機管理マニュアルなどが整備されているか	☒	3
		2 危機管理マニュアルなどの内容が職員に周知されているか		
		3 常に、日常の事故防止などに注意を払っているか		
	個人情報保護	1 施設の利用者の個人情報を保護するための対策が適切であったか	☒	
	防犯、防災対策	1 防犯、防火などの対策、体制が適切であったか	☒	
		2 防災訓練など、必要な訓練が実施されたか		
	緊急時対応、体制	1 事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか	☒	
		2 必要な保険に加入するなど、利用者などからの損害賠償請求への対応措置が講じられているか		

7 地域連携

	地域の声を聞く体制や、協働で地域貢献ができる運営であったか。市内雇用や市内事業者から物品を購入する等、地域を活用した管理運営であったか。障害者就労施設等からの物品及び役務の調達に努めたか。	評価
地域連携	協定内容・指定管理者提案	4
	追加された内容、未実施の内容及びその理由	

【総合評価】

総合評価		
指定管理者の健全性	3	6
施設の有効活用	4	16
利用者評価	4	16
事業収支	3	6
管理運営全般	4	8
危機管理体制	3	12
地域連携	4	8
合計得点		
72		
		
----- 基準値		
評価理由	・「施設の有効性」について、ホームページやInstagram、有線放送等の周知活動により、専門家相談の件数が大幅に増えていることから「4」とした。 ・「利用者評価」について、利用者にとって居心地の良い施設をつくることを最重要とし、利用者への声掛け等に取り組んだ結果、利用者満足度が前年度から約25%上昇したことから、「4」とした。 ・「管理運営全般」について、高い専門性を備えた職員を多く配置し、昨年度より子育て支援員が1名減っているにもかかわらず、昨年度と同程度の利用者数に対応した点、施設の維持管理を適切に行った点から、「4」とした。 ・「地域連携」について、スタッフがほぼ市内雇用、授産施設からの物品購入、地域事業者との協働、教育機関との連携、更に月1回有線放送にて情報発信を行う等、地域を活用した管理運営ができた点から「4」とした。	
取組み・改善案等 (施設所管課)	前年度からの課題	改善状況
	・SNSを活用し、イベント、育児講座等の情報発信して、育児の孤立防止支援を図る。 ・支援が必要な家庭や転入者へのサポートの更なる充実、関係機関との連携の強化。 ・こども広場が身近な相談場所として、子育てコンシェルジュ等スタッフがより自覚を持ち専門性を発揮していく。	・Instagramに加え、有線放送を行い、情報発信を行った。 ・支援が必要な家庭への訪問支援や、転入者交流事業を行い、サポートの充実させることができた。 ・専門家相談の件数が増え、こども広場が身近な相談場所として認識されてきた。
次年度の目標・取組み等 (施設所管課)	・新規登録乳幼児数を増やし、子育て家庭の孤立防止を図る。 ・保育・幼稚園課及び保育コーディネーターとの連携を強化し、制度の最新情報を共有することで子育てコンシェルジュ等の専門性を高める。	

指定管理者自己評価

(1) 今年度の取組みに対する評価

① サービス向上に向けての取組み

*ひろば事業

- ・「ふれあいタイム」の充実(毎日2回)。親子で触れあう手遊び、体操、お話、楽器遊びを取り入れ来館する子どもたちの年齢に合わせた内容で満足度を高めている。
- ・「大型育児用品」のリユース会を開催した。利用者からの「定期的に開催して欲しい」「大型のものなどのゆずりあい事業を復活させてほしい」との強い要望と不定期に譲りたい方からの問い合わせがあることから、できるだけ相手のニーズに応えられるようにした。
- ・父親の育児の普及から「育児パパの座談会」を開催した。(年3回)交流を目的とし、父親ならではの悩みや思いを話せる場とした。父親同士の連絡先の交換からその後の交流へとつながった。これから父親になる男性も参加し、相談しアドバイスをもらうことができた。
- ・講座の宣伝だけではなく、活動の報告や日々の様子を掲載しこども広場を子育て世代に周知させるためInstagramを活用した。フォロワー数は1,000人を超えた。

*保健所協働事業

- ・「ふたごみつご広場」では、日曜開催を3回行った。前年度の自主事業から必要性を感じ、保健所と協議し実現した。平日は未就園の月齢の小さい子どもが主な参加者であるが、休日は就園している子どもとその保護者が参加することで、交流に深みを増すことができた。
- ・「休日マタニティセミナー」では、これから子どもを持つイメージを持つことや、この広場を知ってもらう目的から利用している親子との交流を促している。こども広場で行うことの良さを活かし、併設している「育児用品リユース」の周知から、少しずつ妊娠期からの利用につながっている。また出産後の利用へとつながっている。

② 業務の効率化に対する取組み

- ・これまで兼務していた館長と法人の所長業務を分離し、非常勤から常勤に移行した職員の業務内容を見直し、役割を分担することができた。
- ・入退館システムの活用。集計や報告の時間短縮を可能とし、『こども広場開館時間に関するアンケート』の際の集計に利用することができた。
- ・開館時間前の準備内容を見直し、職員の勤務時間を短縮した。
- ・施設外構の草刈り、および建物窓ふきを外部委託し、他の業務を優先することができた。

③ その他

- ・子育て中の保護者向けのワークショップ「なかみをふやそう！わたしたちのしつけがくろ」の講師育成の研修会と「寄り添い型支援」への理解を深めるための研修会を同日開催する。保育・幼稚園課にもご協力いただき子育て支援現場の職員および広場利用の母親に参加を募り実現した。他の子育て支援現場の職員を交えた交流と充実した研修会を行なった。
- ・毎月1回職員会議を開き、行事の内容や状況に応じた問題点を確認しあった。また「長野市篠ノ井こども広場指定管理の仕様書」および「長野市こども広場の設置及び管理に関する条例」を全員で読み合わせ、職員の意識が向上するよう努めた。
- ・全職員が順番に施設内外の安全点検を月1回行うことで、環境を整え、また危険箇所を把握するようにした。今年度事故は無かった。
- ・長野市救命講習会「普通救命講習」に参加し、AEDの実践を学ぶ。
- ・粉ミルク、離乳食等のフードドライブの常設寄付受付により、保健センターからの依頼に無償提供を可能とした。

(2) 指定管理者業務実施上の課題

- ・昨年度に引き続き施設の老朽化、経年劣化による設備の不具合がますます増えた。(外壁からの雨漏り、2階トイレ小便座の水洗、玄関自動扉)その都度、担当課に連絡をし、どう対処していくか相談をした。すぐに依頼できる地元業者を確保する必要がある。
- ・妊婦利用者数の集計は、現在その他の大人扱いとなっている。妊娠期から利用できる施設として「休日マタニティセミナー」の出席者だけでなく妊婦の来館もあることから「妊婦枠」が必要ではないかと思う。
- ・天候やイベントにより利用率が高くなる日がある。0歳から～就学前の子どもが安全に利用することが難しく感じる。

- (3) 総合評価
- 評価基準
【A】計画や目標を大きく上回る 【B】計画や目標を上回る 【C】計画や目標どおり
【D】計画や目標を下回る 【E】計画や目標を大きく下回る

指定管理者
自己総合評価

A

① 評価理由

- ・昨今の社会情勢に合わせ父親の育児に焦点を当てた交流事業を実施した。更なる父親の施設利用へと働きかけた。
- ・「ふたごみつご広場」「育児パパの座談会」など平日だけでなく土日のみ利用な方に向けた交流の場を設けた。
- ・年3回、訓練(火災、地震、不審者侵入)を利用者で行い、消防署・警察署からの指導を受け職員間で振り返りを行った。とりわけ不審者侵入訓練では指導のあった箇所への鍵の取り付けを行い、危機管理意識を高めた。
- ・ヒヤリハットの様式の見直しを行った。事故を未然に防ぐためのものだと言われ職員間で確認しあい活用している。
- ・支援を必要としている本人からの電話相談に対しては、緊急性が高いと判断し、家庭への訪問支援を行なった。
- ・法人、長野市、ひろば全協主催の研修会への参加した。他県の子育て支援現場からの視察を受け入れ、および視察研修への参加。利用者支援等員等資格の取得など支援員の専門性を高め、事業に活かした。
- ・利用者アンケートの結果は、昨年度より満足度が24.9%上がった。

② 次年度以降の取組み

- ・篠ノ井ハローワークとの連携による求人情報の直接提供。
- ・交流事業「パパのおしゃべり会」⇒昨年度は『育児』に限定していたが、育児にこだわらないパパ同士の交流の場を提供する。
- ・保活トーク会⇒保育園、幼稚園選びに悩む相談が多いことから、利用者同士の交流会を開催する。促進も目的とする。
- ・利用者支援事業全日実施
- ・子育てコンシェルジュの視察と支援員の交流(継続)
- ・「ながの子ども・子育てフェスティバル」への協力
- ・長野市緊急時における災害支援ネットワークへの参加
- ・学生ボランティアへの協力依頼(継続)